

News

応用生命化学実験Ⅱ

5 月 2 日(水)から約 3 週間にわたり、学部 3 回生が受講する応用生命化学実験Ⅱにおいて、食品・栄養化学研究分野担当の実験が開講された。

毎年様々な食材を用いて行っている応用生命化学実験Ⅱであるが、今年の実験ではリンゴ・ゴボウ・ホウレンソウを用いた。これらの新鮮物からポリフェノールを抽出して食品サンプルとし、細胞実験と動物実験の両方に供して食品成分の抗アレルギー効果の検証を行った。

B3 の学生たちにとっては、クリーンベンチ内で細胞を扱うことも、実験動物に実際に触れることも本実験が初めてである。実験技術や知識を身に付け、本研究室の雰囲気や少し身近に感じてくれたらうか。

また今年は、生徒を前半と後半に分けて動物実験と細胞実験を入れ替える等、例年とは異なるスケジュールを試みとして取り入れた。TA にとっても、食材の検討と予備実験から含めると約 2 ヶ月、試行錯誤と挑戦が続いた期間であった。今月はそんな学生実験の様子を写真と共にお届けする。



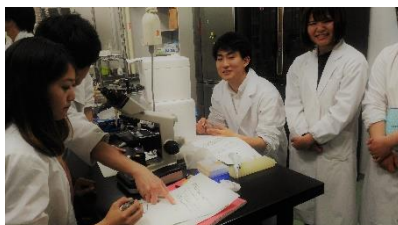
実験初日、食材を刻む前の一枚。全班でまとめて食材を刻むので、実験台の周りは大混雑だ。



本年度大幅に改訂したポスターを用いて細胞実験の説明をする田代純輝(上、M1)と動物実験の説明をする森田温子(下、M1)。I 型アレルギーの機序から実験に使用する試薬や反応、目的・方法まで余すところなく丁寧に説明を行い、B3 の学生達にも非常に分かりやすいと好評であった。



尾静脈注射を B3 の学生に教える前田和貴(B4)。マウスの扱いに手慣れており、教えるのも上手な彼は今年も立派に TA として奮闘してくれた。



細胞数の計測方法をプリントを用いて教える田代(M1、左から 2 人目)。B3 の学生達は細胞実験 2 日目とあって、少し慣れた様子。

約 3 週間に渡り、火～木曜の 3、4 限を使って行った学生実験は、今年も無事に終了した。B3 の学生達は学生実験後に控えた第 1Q の試験勉強に追われていたが、実験レポートも処理するデータが多く大変なので、そちらも頑張って書き上げてほしい。

研究室見学

5 月 19 日(土)、他大学からの大学院受験者向けに農学研究科の説明会と研究室見学会が行われた。本研究室にも 8 名の見学者が訪れ、田代(M1)が入試や研究内容の質問に答えていた。

学実打ち上げ

学生実験の終わった 5 月 31 日(木)、リラクゼーションルームにてささやかながら打ち上げが行われた。冷房を効かせた部屋でいただく鶏白湯鍋は具たくさんでとてもおいしく、お酒も話も弾み、充実した夜となった。またこの時、水野雅史教授のお知り合いから送って頂いたそら豆も良いお酒のつまみとなり、皆で堪能した。しかし、食べるのに夢中になってしまい写真を撮るのをすっかり忘れてしまっていた。申し訳ございません。具材を多く買いすぎたためにメとして用意されていた中華麺は余ってしまったが、翌日のお昼に焼きそばとなって学生たちの胃袋へ消えていった。

編集後記

5 月の大イベントである学生実験が無事に終わり、ほっとした気持ちです。準備は大変でしたが、人に教えることで自分も勉強になり、良い経験となりました。B3 の学生に、今までの実験の中で一番理解して手を動かせた、と言ってもらえたことが本当に嬉しかったです。このところ急に暑くなり、研究室でも体調を崩す人が増えています。健康に気を付けて研究を進めていきたいですね。

丸岡 祐子(M1)